

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立時の理念である「ともにいきいき」を基に、職員と話し合い、具体的な理念に変更した。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、職員、利用者さんも含めて合同で理念を読み、理解するようにしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	施設便り、名刺などへの記載をしています。回覧板の表紙などにも施設の紹介と理念を掲示させてもらっています。又、運営推進会議でも説明しています。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	管理者は、当該地区に居住しており、地域の行事などに積極的に参加している。この地区に住んでいる職員が勤務していることもあり、知り合いの方が来訪されます。また、野菜等の差し入れを頂くこともあります。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	文化祭、地域の温泉施設利用、夏祭り、春・秋祭りの山笠との交流、餅つき大会、保育園児の生活発表会を兼ねたクリスマス会開催など、地域との交流を推進している。また地域老人クラブや地域の他のグループホームとの交流を実施した。	○	今後も共同で高齢者スポーツや各種行事を計画し、参加を呼びかけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議や各種会議で施設の業務内容を説明して、理解を深めてもらえるようにしている。又、パンフレットについても福祉に関する相談をお受けするよう掲載している。相談にこられる高齢者のかたもおられ、親切丁寧に対応している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価に基づき、直ちに改善可能な点は職員と話し合い改善した。意見を求めた事で、評価の定義を深めることができたし、職員も前向きに対応している。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議は2月1回実施している、利用者の家族の方も参加している為、家族の意見を参考にできます。また、その際に、行事への参加の相談をしたり、利用者の方への取り組みなど話し合いをしています。	○	会議の際、利用者の方と同じ食事をして頂いたり、各種行事に参加していただく。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の文化連盟に加入し、文化祭に利用者さんの作品を出品しました。他の施設の方とも交流の機会が持て、参考になります。また福智町グループホーム連絡会が結成され、福智町、他の事業所との交流がより活発になりサービス向上の参考になります。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度や、地域福祉権利擁護事業についてパンフをもとに学習会を実施した。外部からも問い合わせがあり、実際に機関に相談をしたこともあります。	○	今後も職員全体が理解できるように会議等で学習したい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修や毎月の職員会議で、新聞等マスコミの資料を基に学習し、虐待の防止に努めている。常に拘束や虐待防止の指導を行っています。ホーム内で不適切な介護事例があり身体拘束・虐待の研修を実施するとともに広域連合・町に報告するなど、小さなことでも見逃さないよう職員全員で確認した。	○	身体拘束や虐待防止の施設内研修を行うとともに、施設外の講習会、研修会があれば積極的に受講させる。平成22年度から常勤職員は、3回の自主研修を義務付けした。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書の内容について十分説明し、利用者の家族で行っていただくこと等、十分理解をして頂いた上で契約をしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特にそういった機会は設けていないが、極力利用者の方の話を耳を傾けるようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会などの際、近況報告をしている。利用者の状態が変わったり、病院から処方箋の変更があった場合など、連絡をしている。 又、毎月のホーム便りに行事報告をするとともに、金銭明細、領収書を送付している。	○ 毎月のホーム便りに行事報告をするとともに、金銭明細、領収書を送付を継続的に実施する。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・不満・苦情等は、責任者が聞き入れ、職員伝達ノートに記録したり、朝、夕の申し送りや職員会議で伝達し、家族の意向を伝えるようにしている。意見箱を設置したり、ホーム便りに意見を寄せていただくよう記載している。家族の面会の際等会話する中で聞き出すよう心がけている。意見・苦情・不満は宝であるということをじっくり学習した。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職員会議の中で提案してもらうようにしている。話し合いをした上で今後のサービス支援の統一性をもっていけるように取り組んでいる。	○ 提案事項が少ないので、それぞれの職員に割り当てて、毎月職員会議の際に提案してもらい活発な議論をし、反映させていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要な時間帯に職員を確保するようにしている。また、急を要する場合には、管理者等に連絡をとり調整をしている。	○ 緊急時の呼び出し体制により、確保している。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	家庭や本人の事情により、やむを得ない場合もあるが、離職しなくてすむように勤務調整をし、本人の状態を確認し勤務設定をしている。また、他の職員に事情説明をして協力してもらっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあつたては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。</p>	<p>認知症高齢者に理解があり、高齢者を敬う気持ちがある人であれば性別・年齢に関係なく対象としています。ホームで勤務している職員は、年齢、人生経験も様々で、個々の持ち味があり、お互い良い部分を吸収し合いながら、それぞれが能力を発揮し生き生きと勤務されている。また、資格取得等で、必要な場合、勤務シフトの配慮を行う等、可能な限り配慮している。</p>	
20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>町が実施している人権学習会・講演会の参加呼びかけをしている。</p>	<p>○ 年に最低一回は人権講演会(学習会)への参加を義務付けるようにしている。</p>
21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>段階に応じて研修を受講させ、職員会議や、職員研修の際に研修内容の報告をさせ、他の職員へ情報提供しています。また、各種研修案内のポスターなどを掲示したり、勤務日程調整を行うなど受講環境の配慮をしている。また、全員を対象とした職員研修を実施している。</p>	<p>○ 受講者には、レポートの提出や職員会議での発表をする場を設けたい。</p>
22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会に加入し様々な情報交換や学習会にも職員が参加した。また、各種行事への参加、招待、合同レクリエーションの呼びかけを行っている。平成21年度は、そうめん流しに招待され参加した。</p>	<p>○ グランドゴルフや祭り山笠との交流等合同レクリエーションの、行事計画をしていきたい。</p>
23	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩室をホーム外に設置し、休憩時間を確保して、気持ちに余裕を持って、業務に取り組んでもらうようにしている。また、シフトの作成についても、休日希望日程に沿って、勤務日程を組んでいる。</p>	
24	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>研修会、行事のボランティア参加状況を把握している。また行事など役割分担し、責任を持って取り組んでもらうことで、向上心を持って働けるようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学や家庭訪問の際、利用者さん本人から、意向を丁寧に聞き取りするよう努め、気付いた点等、話し合いながら、困っていることや求めていることを受け止め、不安のない生活ができるよう心がけている。	
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学や家庭訪問の際、家族から、意向を丁寧に聞き取りするよう努めています。また、家族との連携を密にしながら、不安のない生活ができるよう心がけている。	
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で心身の状態、日常生活で困っている事など、事前にお伺いし、当施設での対応が可能か、デイサービス、特養や、療養型施設の支援も検討してはどうか説明している。それにより支援、対応に努めている。	
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居などを利用し施設の雰囲気を掴んでもらうとともに、状態の観察や、丁寧に聞き取りをしながら情報の把握に努めている。家族とも連絡を密にし、情報提供等の協力を得ながら、入居者同士の共通の話題、趣味等を通して関係づくりを行い、本人が徐々に環境に馴染むよう配慮している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の方は、様々な形で社会へ貢献して来た方々です。それぞれの経験を生かした分野で一緒に家事等を行いながら、職員も様々なことを学ぶ、お互いの立場をこえて支えあう関係を築く努力をしている。		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホーム便りで入居者の状況を報告したり、各種行事に招待し、一緒に本人を支えていく関係づくりをしている。	○	家族と一緒に過ごせる行事を計画していきたい。
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者、家族の方との会話や面談の中から関係の理解に努めている。家族の方が、仕事や、家庭の事情で面会に来れなくても、毎月のホーム便りや、電話連絡などでより良い関係づくりが出来るよう支援しています。	○	家族との連携をより密にして、本人と家族との関係の理解に努めていきたい。
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散髪、病院など本人が今まで利用していた施設等を継続している。又、行事(夏祭り)では、家族などを招待し会える機会が途切れないよう支援している。	○	家族と一緒に過ごせる行事を計画していきたい。
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係は把握している。ホールでは指定席が出来上がっており、椅子の取り違えでトラブルになることがある。(職員が事前に察知しフォローしている) 殆どの利用者さんが、ホールで一日を過ごし、閉じこもりや、孤立している方はおられない。		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	別の施設、病院に移った方の誕生日などに面会したり、家族に手紙を出したりして関係づくりを継続している。(殆ど長期入院のための退居である)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話や行動観察、家族に対する介護計画の説明や面会時に、暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の生活歴は、家族の方、利用者本人の話で把握し基本情報に記載している。	○ 面談の際、会話の中で把握していくように努めていく。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や、心身状態は、個人記録、業務日誌や申し送りで把握している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は家族、利用者の意向を反映させるよう職員間で検討し作成している。	
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月に一度の介護計画を作成しているが、期間中対応できない変化に対しては、家族、医師、職員に相談し意見を取り入れ、職員伝達ノートや、申し送りで対応している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月ごとのモニタリングの際、日付を区切り、一日の出来事を確認しながらアセスメントしている。介護計画には業務日誌や個人記録は反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院、自宅への送迎など、本人、家族の、その時々々の要望に応じ対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	文化祭や、夏祭り、スポーツ大会等の、各種行事や、避難通報、消火訓練等地域、関係機関の協力を得ながら支援している。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	認知症ではない高齢者の方から相談があり、地域福祉権利擁護事業の活用、その他、介護保険の利用について説明をしたり紹介を行った。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	認知症の高齢者の方の親族から、同居の親族が虐待(財産、食事等)している可能性があったので、地域包括支援センターに相談し、協働して解決することが出来た。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に、かかりつけ医を、受診し個々の病状や、状態を家族に報告したり、申し送りや、個人記録に記録し職員全員が情報を共有出来るようにしている。また、適切な医療を受けられるよう通院等の支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
47	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
48	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
49	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
50	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
51	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	出来る限り、優しく、ゆっくりと利用者さんの立場を尊重するような声かけや対応、記録の書き方をするよう指導している。	
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者、個個人に合った声かけを行い、本人の希望や、意見を聞いていくよう心がけています。外出やレクなど、本人が自ら決定する場づくりに努めて支援している。	
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆さん出来るだけ思いおもいに過ぎて頂いておりますが、体操、レクや外出、温泉入浴等の社会参加への呼びかけを行い行事等には出来るだけ参加してもらっています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に1回程度、美容師の方の来訪を受け入れ、希望者はカットなどの髪の手入れをしている。又、行きつけの理・美容院を利用される方は、送迎の支援を行っています。	○ 理・美容室は本人、家族の希望する店に行けるように今後も支援していく。
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんの好き嫌いを把握し、献立を工夫し楽しい食卓となるように配慮している。又、伴食しながら嚥下状態、嗜好の把握を行っている。料理は職員が作っていますが、豆の皮むきなどは利用者さんに出来る事は手伝いをして頂いたり、おしぼりの配布や食器の片付け等を職員と一緒に行ってもらっています。	
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族、本人の希望により、嗜好品を日常的に楽しめるように支援している。 現在、養命酒、タバコ、牛乳、清涼飲料水等をお預かりし希望するときに楽しんでいただいている。	○ 利用者本人、ご家族の意向を尊重し、嗜好品を楽しめるよう支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を基に、個人の行動、状態を把握し、トイレ誘導を行っている。夜間以外は、出来るだけおむつの使用さけ、朝の更衣時にパンツに履き替えさせるといった支援をしている。日中、紙パンツを使用している方についても、失禁状態を把握し、布パンツに切り替え出来るだけ、普通の状態に戻すよう、試行している。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	行事などにより、変更することはありますが、入浴に関しては、曜日を決めています。利用者の方の不平不満がないように、順番を変えて入浴している。但し、本人が、入りたくない時間帯の変更を行うなど柔軟な対応をしている。また入浴を楽しんで頂くため月2回温泉入浴に出かけている。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない方には、お茶を勧めたり、一緒に話をして過していません。日中と夜間の区切りをつけるために、就寝時は寝間着に、きちんと着替えをして気持ちよく寝れるよう支援をしている。職員には徹底するよう指示している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除など、身体を動かすことが好きな方には、モップがけや洗濯たたみなど、無理のない範囲で手伝いをしてもらっている。月に4～5回計画を立て外出の機会を設けている。(温泉2回、買い物2回、その他)		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を無くしたという事が、多い為、大きな金額は、事務所で預っています。数名を除き財布を持っています。買い物などでは、職員が付き添い、自分で支払をしています。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日ではないが、希望に沿って、散髪、リハビリなどに行っています。落ち着かない時には薬取りなど、職員と一緒に外出したり、散歩の声かけを行うなど、外に出る機会をつくるよう支援している。また、月2回の温泉入浴や買い物の日を設けている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとに花見や紅葉見学などの行事の計画を立て、外出の機会をつくっています。今のところ家族と、施設合同での外出はありません。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホールに公衆電話を設置し、利用者自ら、気軽に利用できるようにしている。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	個人の居室へ案内し、ゆっくりと話ができるように、椅子の提供や、お茶の接待をしています。又、いつでも気軽に訪問して頂くよう声かけしています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の、具体的な行為を例示し、拘束は、絶対にしてはいけないと指導している。職員全員で学習会を実施し、新規就労する方についても実施した。また、職員会議でも定期的に議題にして、再確認するようにしている。	○	毎年、職員研修で実施しているが、グレーゾーン等について十分職員の意見を聞きながら学習していきたい。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵をかけることはないが、日勤者の勤務終了後や、雨降り時など、外に出ようとする行為がある場合、やむを得ず施錠する事がある。また、利用者の方が玄関の鍵を扱い施錠されることがある。	○	家族の方など、何時でも人の出入りが出来ることが基本であることを伝えている。職員が中央の位置に立ち全体が見えるよう、また、場所を離れる時には声かけをするよう心がけている。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に見守り、声かけの徹底を指導している。また、気付いた事は職員同士互いに注意しあったり、責任者が注意指導をする。又、夜間は定期的に(一時間ごと)に巡視を行い様子確認を徹底している。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人、家族の意向を取り入れ、注意の必要な物品を使用する際は、職員が十分な見守りの元で、使用するようになっている。使用後は、施設が保管し、いつでも使用出来る事を、利用者さんには説明している。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット、事故報告書を直ちに作成し、原因や事故防止策を講じている。また、個々の利用者の方の状態を把握し、事故防止に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命救急講習等を積極的に受講し、知識を身につけるようしている。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員、利用者全員参加して、消火、通報、避難訓練を年2回実施している。消火器を利用したの消火訓練も同時に行いました。	○	地域消防団との連携を強めていきたい。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族には、起こったことや、起こりうるリスクを十分説明し、理解して頂き、抑圧感のない暮らしが出来るよう、話し合いを行っている。(例えば、感知センサーの設置をするなどの理解を求めている)		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝、夕、2回バイタルチェックを行い、体調の変化や、異変の把握を行い、必ず申し送り、また、伝達ノートに記入し職員全員が情報を共有出来るよう、工夫している。細かい事でも、気付いた事は記録に残し、医師の指示を仰ぎ、家族に状態の報告を行っている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の説明書を読み理解をしている。症状の変化があった場合は速やかに、医師に報告している。又、薬の変更等については、記録し、職員全員が情報を共有出来るようにしている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の体操、散歩、レクなどで身体を動かしたり、水分の摂取や飲食物の工夫を行っている。排泄チェック表を見ながら、便秘が長引く場合は、医師に相談し、緩下剤を処方してもらっている。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、全員、歯磨き、うがいをしてもらうよう声かけをしたり、自分でできない方については、準備や口腔ケアを職員が支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分チェック表を作成し、各自の水分摂取量の把握をしている。夜間もペットボトルでお茶を配布し、トイレ誘導の際、水分補給の声かけをしている。	○	水分摂取量を正確に記録し各自の水分摂取量が適正であるか、把握する。
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策研修会に参加したり、予防マニュアルを作成している。インフルエンザは、全員予防接種を義務付けています。又、玄関前に手洗い消毒や、ホーム内にオゾン発生器を設置し感染症の予防対策をしている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限、消費期限切れの食材は、絶対に使用しないことを指導しています。調理場に注意事項を掲示し、清潔を保つよう指導している。また、生鮮食料品は毎日買出しを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは、植栽し、家庭的な雰囲気を醸し出すよう配慮し、玄関には、利用者の方の作品を展示し、楽しい雰囲気になるよう工夫している。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃きだし戸を採用し、採光のよい明るい家庭的な施設づくりをして、不快な音や光がないように配慮している。居間や廊下には季節感を感じる飾り付けや行事の写真を掲示している。又、居間、厨房、食堂が一体となっており、包丁の音、調理の際の料理のにおいなど、生活感が漂うように、工夫している。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間があり、横になってくつろげるようにしている。又、廊下に長イスを設置し仲良しの方と、景色を眺めたり、話をしたり出来るよう工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや鏡台など、以前家庭で使用されていた家具を、各自持ち込まれ、本人や家族と話し合い配置しています。又、仏壇を置き先祖の供養をされている方もおられます。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的な換気はもちろんですが、オゾン発生器を設置し、においや、細菌等の、汚染による事故防止を行っています。空調の温度設定は夏期は、27、28℃、冬期は、23、24℃を基準とし、利用者の状態に合わせてながら、職員が適宜調整を行っています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や、トイレには、手すりを設置し、可能な限り、自力歩行が出来るよう配慮している。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入口に、名札や写真を掲示したり、トイレの表示をするなど、本人の分る力を生かせるように配慮している。		
89	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに出て、外の景色を眺めたり、散歩帰りに椅子に腰掛け出来るようにしています。又、利用者さんと野菜づくりを一緒にできるように菜園を設置するなど、活動出来る場として活かしています。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		○ ②数日に1回程度
		③たまに
		④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている
		○ ②少しずつ増えている
		③あまり増えていない
		④全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が
		○ ②職員の2/3くらいが
		③職員の1/3くらいが
		④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が
		○ ②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が
		○ ②利用者の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

広々として、緑に囲まれた環境の中にあり、地元の方々には慣れ親しんだ、福智山が、四季折々の壮大な姿を見せてくれます。天気の良い日は、景色を見ながら散歩したり、地域の高齢者と交流グランドゴルフを楽しんでいます。当施設は設備面では、ノロウイルスや、インフルエンザの予防や、不快臭の除去の為に、オゾン発生器の設置をし、居間、廊下は床暖房、浴室の更衣室にも暖房を設置し、急激な温度変化によって、体調を崩すことのないようにしています。居室は、履き出し戸を採用し採光の良い圧迫感の無い空間を提供しています。運営面では、毎月それぞれ2回、温泉でゆったり過して頂いたり、買い物の日を設定し、外出の機会を設け、社会参加活動を行っています。また、保育所の児童や地域の子供山笠との交流事業を行っています。健康管理のため、朝夕2回、入浴の前のバイタルチェックを行い健康管理を行っています。安全面では、緊急通報装置は、開所時から設置しておりましたが、平成21年11月、福智町より補助金を頂き、スプリンクラー設備をし、さらに安全安心なホームとなりました。